

1. 科目名 (単位数)	社会福祉援助技術特論 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	SSMP5331
2. 授業担当教員	【池袋】田中 喜美子 【名古屋】伊東 真理子			
4. 授業形態	講義・ディスカッション・ワークショップ		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	<p>社会福祉実践理論・技術に関する諸々の課題について、学習し、検証することが期待される。特に、エコ・システム論と生活モデルを枠組みとして、個人、家族、グループを対象とした対人援助過程の検証を行うことが必要である。さらに、院生は自分の興味ある特定の実践方法及び研究領域・課題の発見をするとともに、新しい実践理論・モデルの開発をする努力も期待される。</p> <p>究極的には、学習した多様な社会福祉援助技術に関する理論と方法を社会福祉実践現場だけでなく、専門的対人関係で活用できるソーシャルワーカーとしての専門的力量を育成・強化する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸々の社会福祉援助技術の基礎理論とモデル (個人、家族、グループ) を理解し、その方法や細かいスキルについて学ぶ。</li> <li>2. ケースワーク、グループワーク、ファミリーワーク、コミュニティワークそれぞれの基本的なスキルを学び、身に付ける。</li> <li>3. 学んだ多様な社会福祉援助技術の理論と方法を身に付け、ソーシャルワーカーとしてクライアントや社会的弱者及び社会問題の解決と改善のため即時的に使えるようにする。</li> <li>4. 院生が社会福祉援助や実践理論・モデルを社会福祉実践現場でどのように応用できるかが考察できる。</li> </ol>			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>社会福祉援助技術に関する論文の一つを選び、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>A. 論文の主目的 (何を読者に伝えようとしているのか)</li> <li>B. どのような種類の論文か (例; 理論、調査結果、効果測定など)</li> <li>C. 論文の内容 (主な概念、データ、分析方法など)</li> <li>D. 論文がどのように構成されているか (論文の形態)</li> <li>E. 論文の領域についての貢献度 (論文の重要度、この論文から何を学んだか)</li> <li>F. 論文の長所と短所、論文の価値などについてまとめて、最後の授業時間に提出する。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 レジュメ+資料</p> <p>【参考書】</p> <p>平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子 (1998) 社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ、ミネルヴァ書房</p> <p>岡村重夫 (1974) 『地域福祉論』 光生館</p> <p>金ヨンモ、洪金子、金ジニ (2000)、社会福祉実践論、高憲出版部</p> <p>フェリックス・バイスティック (著) 尾崎新・他 (訳) (2006) ケースワークの原則：援助関係を形成する技法 誠信書房</p> <p>カール・ロジャース (著) 保坂亮 (訳) (2005) クライアント中心療法 岩崎学術出版社</p> <p>ハインツ・コフォート (著) 笠原嘉・本城秀次 (訳) (1995) 自己の治療 みすず書房</p> <p>メアリー・リッチモンド (著) 佐藤哲三 (訳) (2012) 社会診断 あいり出版</p> <p>Perlman, H. H Social Casework: A Problem-solving Process, Chicago, University of Chicago Press, 1957, pp.164-165</p> <p>Shulman, L. (2016). The skills of helping individuals, families, groups, and communities (8th ed.). Belmont, CA: Brooks/Cole.</p> <p>Poulin, J. (2010). Strengths-based generalist practice: A collaborative approach (3rd ed.). Belmont, CA: Brooks/Cole.</p> <p>Roberts, Albert R. &amp; Yeager, Kenneth R. (Eds.) Evidence-Based Practice Manual (2004) Oxford University Press.</p> <p>Corcoran, Jacqueline (2003). Clinical Applications of Evidence-Based Family Interventions, Oxford University Press.</p> <p>Toseland R. W. &amp; R. F. Rivas (1984), An Introduction to Group Work Practice, New York : McMillan.</p> <p>Murray G. Ross (1967), Community Organization: Theory, Principles, and Practice (New York Harper &amp; Row, Publishers,</p> <p>J. D. Anderson, Generic and Generalist Practice and BSW Curriculum, Journal of Education for Social Work, 18(3), 1982, pp.37-45</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>授業とディスカッションとワークショップへの参加度と積極性+レポート</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業とディスカッションとワークショップへの参加度と積極性 60%</p> <p>レポート 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業とディスカッションとワークショップに積極的に参加すること。</p> <p>授業中に疑問に思ったことは、忌憚なく質問して解決を図ること。</p>			
13. オフィスアワー	<p>(田中喜美子) 毎週の金曜日午後3時~5時 (伊東真理子) 別途、通知する。</p>			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1~2. テーマ	社会福祉援助技術の概念と領域			
<p>【学習の目標】 社会福祉援助技術の概念と基礎理論として生態システム理論生活モデルについて学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 社会福祉援助技術の概念 生態システム理論と生活モデル ソーシャルワークにおける価値</p> <p>【キーワード】 社会福祉援助技術の概念、ソーシャルワーカーの専門性・倫理綱領・専門家の態度、生態システム理論、生活モデル</p>				

	<p>【学習の課題】ソーシャルワーカーとして現場で働くとき、専門的力量を備えるため求められる自分に合う社会福祉援助モデルを見つけていく。</p> <p>【参考文献】平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子（1998）社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ、ミネルヴァ書房 金ヨンモ、洪金子、金ジニ（2000）、社会福祉実践論、高憲出版部</p> <p>【学習する上での留意点】ソーシャルワーカーは、自分を道具として援助活動を行う専門職者であるため、社会福祉援助技術の習得が非常に重要であることを認識すること</p>
3～5. テーマ	個人を対象とするソーシャルワークとその実践方法
	<p>【学習の目標】個人を対象とするソーシャルワーク(ケースワーク)とその実践方法について分かる。</p> <p>【学習の内容】M.Richmondを始めとするCW学者らの個人を対象とするソーシャルワークの概念について 積極的傾聴・面接の方法について H. Perlmanの4Pの内容と、事例分析への適用 ケースワークのプロセス（インテーク、アセスメント、介入計画、介入、評価）について 記録(Recording)の目的と方法 対人関係における7つの原則</p> <p>【キーワード】自己覚知、事例分析、ロールプレイ、ケース、対人関係、ラポール、専門家としての態度</p> <p>【学習の課題】事例を通してケースワークの技法やプロセスを総合的に学習する。</p> <p>【参考文献】平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子（1998）社会福祉実践の新潮流・エコロジカル・システム・アプローチ、ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】学習した内容を総合的に適用すること</p>
6～8. テーマ	集団を対象とするソーシャルワーク(グループワーク)とその実践方法
	<p>【学習の目標】グループワークについて理解し、その実践方法を身に付ける。</p> <p>【学習の内容】Coyleを始めとするGW学者らのグループワークの概念について グループの種類・グループの短所と長所 グループワーク実践モデル(社会目標モデル、治療モデル、相互作用モデル、目標形成モデル) Shulmanのグループワークプロセス（準備期—開始期—作業機—終決期） グループワーク実践の記録(Recording)</p> <p>【キーワード】相互作用・相互援助、グループワークの要素、グループダイナミックス、Sociogram、サブグループと Scapegoat、グループワーカーのリーダーシップ、プログラムなど</p> <p>【学習の課題】グループワークの学習やワークを通して自分の問題が解決でき、自己成長もできるようになる。</p> <p>【参考文献】Toseland R. W. &amp; R. F. Rivas (1984), <i>An Introduction to Group Work Practice</i>, New York: McMillan.</p> <p>【学習する上での留意点】学習した内容を総合的に適用すること</p>
9～11. テーマ	家族を対象とするソーシャルワーク(ファミリーワーク)とその実践方法
	<p>【学習の目標】ファミリーワークの概念について理解し、その実践方法を身に付ける。</p> <p>【学習の内容】Parsonsを始めとするFW学者のファミリーワークの概念について 家族関連理論(構造機能論、葛藤論、女性解放論)について 家族のニーズと家族生活周期別ファミリーワーク対策 家族福祉サービスの類型：家族機能の支援 Supportive, 補充 Supplementary, 代理 Substitute サービス 家族福祉支援サービスとしての家族相談と家族療法</p> <p>【キーワード】家族関係、Genogram、構造派家族療法・システム派家族療法</p> <p>【学習の課題】ファミリーワークの学習やワークを通して自分の家族の問題が解決でき、家族員と自分の成長に繋がる。</p> <p>【参考文献】金ヨンモ、洪金子、金ジニ（2000）、社会福祉実践論、高憲出版部</p> <p>【学習する上での留意点】学習した内容を総合的に適用すること</p>
12～14. テーマ	コミュニティを対象とするソーシャルワーク(コミュニティワーク)とその実践方法
	<p>【学習の目標】コミュニティワークについて理解し、その実践方法を身に付ける。</p> <p>【学習の内容】Rossなどのコミュニティワークの概念と実践方法について 地域資源の開発と活用 地域福祉における住民の参加 地域ケア・地域トータルケアシステムの考え方 在宅福祉サービスの基盤整備と地域包括支援センターの業務</p> <p>【キーワード】地域資源、ネットワーク・コーディネーション・リンキング、ケアマネジメント、住民参加</p> <p>【学習の課題】地域の資源を活用するだけでなく開発もしていくためには、ネットワーク・コーディネーション・リンキング、ケアマネジメントなどの専門的援助技術に熟練することが求められる。</p> <p>【参考文献】岡村重夫(1974)『地域福祉論』光生館 Murray G. Ross(1967), <i>Community Organization: Theory, Principles, and Practice</i> (New York Harper &amp; Row, Publishers)</p> <p>【学習する上での留意点】学習した内容を総合的に適用すること</p>
15. テーマ	まとめ
	<p>【学習の目標】14回の従業を通して、この科目で学んだ社会福祉援助技術に関する知識と援助技術の統合（インテグレーション）を図り、福祉援助に関する知識・技術・倫理観・実践力の総合を目指す。</p> <p>【学習の内容】学生が主体となって事例や実習の体験を取り上げ、学生が求める援助対象者への援助技術やサービスの提供を通じた支援をワークショップの形でを行い、学んだ援助技術を統合するようにする。</p> <p>【キーワード】事例や実習体験を生かす、主体性、統合する</p> <p>【学習の課題】ケース・グループ・家族・コミュニティに別々にアプローチするのではなく、統合的にアプローチできるゼネラリスト視点を保つこと</p> <p>【参考文献】J. D. Anderson, Generic and Generalist Practice and BSW Curriculum, <i>Journal of Education for Social Work</i>, 18(3), 1982, pp.37-45</p> <p>【学習する上での留意点】今まで学習した内容を総合的に適用すること</p>